

原強プ第16号  
平成26年3月3日

島根県知事 溝口善兵衛様

中国電力株式会社  
取締役副社長  
原子力強化プロジェクト長  
小野雅樹

島根原子力発電所における保守管理の不備等に関する  
再発防止対策の進捗状況について（報告）

平成26年2月17日に開催された、第10回原子力安全文化有識者会議の議事概要について、平成22年3月30日付け消防第2738号および平成22年10月19日付け消防第1054号の申し入れに基づき、添付資料のとおりご報告いたします。

添付資料

第10回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

以上

## 第10回原子力安全文化有識者会議の議事概要について

- 開催日時 平成26年2月17日(月) 14時00分～16時40分
- 開催場所 ホテル白鳥 3階鳳凰の間(島根県松江市千鳥町20)
- 出席者 [地元委員] 浅沼委員, 石原委員, 亀城委員, 曾我部委員, 前田委員, 三好委員  
[一般委員] 宇於崎委員, 樋口委員, 増田委員  
※首藤委員は欠席  
[社内委員] 小野原子力強化プロジェクト長, 清水副社長, 古林常務

### ○ 議事内容

#### 1. 出席委員の確認

事務局より参加委員を確認。

#### 2. 開会あいさつ(小野幹事)

- ・本会議も平成22年8月に第1回を開催し、今回が10回目である。これまでの間、委員の皆さまから、それぞれのお立場からご提言・ご発言をいただき、今日まで進めてこられたことに厚くお礼を申し上げます。
- ・皆さま方から頂戴したご意見等は活動に反映し、二度と同様の問題が発生しないよう、強い思いを持ちながら、更に皆さま方に安心していただける発電所づくりに努めて参っているところである。
- ・昨年7月にはこうした取り組みに対して、国の「特別な保安検査体制」から「通常の保安検査体制」に移り、国には一定の評価をいただけたと思っはいるが、私どもとしては皆さま方から安心していただける発電所づくりについて、これからも引き続きしっかりと対応して参らなければならないと思いを強くしている。
- ・皆さま方にはご支援をいただいたわけであるが、既にご案内申し上げているように、お願いしている委嘱について、今年度を区切りとし、新年度からは新しい体制で取り組まさせていただくよう見直させていただければと考えている。長年に亘っての委員の皆さま方からのご協力に対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。
- ・今日は、ご案内申し上げているとおり、この1年間、取り組んできた諸活動について評価を加えてご報告し、皆さま方からの忌憚のないご意見をいただき、次年度に繋げて参りたいと考えている。
- ・また、昨年12月に島根原子力発電所2号機の新規制基準への適合性確認申請を行なったので、その対応状況についてもご説明する。それでは、さっそく議事に入らせていただくので、よろしくお願い申し上げます。

### 3. 議事

資料に基づき、電源事業本部部長 本田および原子力強化プロジェクト部長 千葉から「平成25年点検不備に係る再発防止対策の取り組み状況・評価・次年度計画等について」を説明し、島根原子力本部部長 井田から「島根原子力発電所2号機新規規制基準への対応状況について」を情報提供した。

主な意見は、以下のとおり。

#### (1) 平成25年点検不備に係る再発防止対策の取り組み状況・評価・次年度計画等について

- ・原子力安全文化醸成活動について、これだけ社員アンケートを実施し、研修を増やしていった場合、それを常にストレスと感じてしまう社員がいるのではないか。
- ・社員の意識が高まって、風通しが良い職場になっていっていることはとても良いことだと思う。今後も雰囲気をより意見しやすい方向に持って行ってほしい。
- ・報告に不具合情報を言い出す仕組みが定着してきているとあるが、単に仕組みが定着してきているだけではなく、ムードが定着してきているのではと思う。
- ・女川発電所の地元では、何かやるときは電力会社社員や協力会社の社員が必ず参加し、地域に密着して活動しているので、電力会社と言うよりも町民の一部だという意識がある。日本で一番最初に稼働して欲しいと言われていた。
- ・地元の間人が中国電力本社はとても遠く感じているのと同様な思いを発電所員が感じていることが、報告にあった本社と現場のコミュニケーションについてのアンケート結果にも現れている。また、社会常識とのズレがないか意識して業務に取り組んでいるかのアンケート結果についても、否定意見が低減するようもっと考えなくてはならないと思う。
- ・新聞紙面に、「親子で学ぶもっと知りたい電気のこと」が掲載されていたが、活字が多く、誰も読まないだろう。以前、小学生が見ても楽しめるような情報にすべきと言ったことがあるが、受け側に分かりやすく、見てもらえるように努力をすべき。
- ・独りよがりではなく、いままでやってきたことをこつこつと継続していったほうが、地元との良好な関係が続いていくものとする。ただし、安全が大前提である。
- ・中国電力にとって、嫌なこと、聞きにくいことに対して、きちんと向き合って説明している。
- ・組織文化の変化について、経営者が急いだ対応をしてしまうと、アンケート調査で格好をつけて回答する人がでてくる恐れがある。
- ・社員がネガティブな意識を持たないようにしなければならない。士気高揚を促すために、褒めてあげる、あるいは励ますことに取り組んでほしい。
- ・点検不備のことを知らない若い社員とのコミュニケーションのために、SNSは必要。最近の新社会人のほとんどがSNSを使っている。アクティブ率の向上を図るため、プロフィールの登録をやめる、匿名で書き込めるようにするなど、違う視点で新たなSNSを立ち上げられたらいいのではと思う。
- ・SNSの活性化として、管理職が進んで書くことなどを工夫されたらいいと思う。
- ・私が出会った社員は、みんな元気で明るく、前向きで自分の仕事に対して信念をもっていたと思っている。そんな社員を前面に出すことで、地元住民に社員の顔が見えるような会社にしてもらうと良い。

**(2) 島根原子力発電所2号機新規規制基準への対応状況について**

島根原子力発電所2号機新規規制基準への対応状況について情報提供し、質疑を行った。

**4. 閉会あいさつ（小野幹事）**

活発な議論に対して謝辞を述べた。

以 上